九度山町議会議員

こんにちは

伊丹俊也 です

伊丹俊也の活動報告

《連絡先》伊丹俊也
〒648-0101　九度山町九度山747－32
TEL&FAX　0736-26-7382
e-mail　itami_t@mth.biglobe.ne.jp

伊丹俊也活動報告2016年12月号
2016年12月11日発行　№2

九度山町議会全議員視察研修　鳥取県日南町　島根県海士町

議会改革・産業と観光の振興策を勉強

九度山町議会は、8月22日から24日、2泊3日の日程で、鳥取県日南町と島根県海士(あま)町で視察研修を実施。2016年第3回定例会を前に、じっくりと勉強してきました。視察研修のうち、鳥取県日南町の議会改革の取り組みについて私が学んできたことを報告します。

議場を見学する九度山町議会議員

議会・議員が住民から問われていること

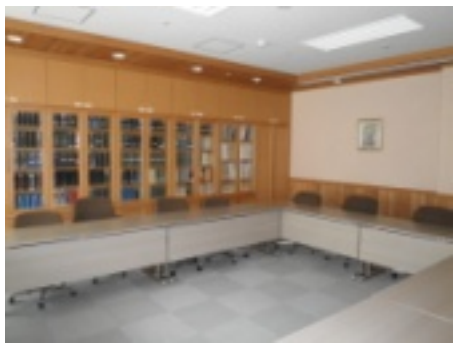
全国の市町村で議会のあり方を問う声が住民の間からわき起こっています。「議員(定数)を減らせ」、「議員報酬を見直せ」などの制度面に対する意見だけではなく、「報酬に見合った仕事をしているのか」というような議員に対する非常に厳しい意見が、有権者から議会・議員に投げかけられています。九度山町でも私はそのような声を聞いています。

議会の住民に伝える力が問われている

議会・議員に厳しい声が町民から上がることの理由のひとつとして、町民から見て「議会が何をやっているのかよくわからない」ということがあるのではないでしょうか。議会の「やっている」ことが町民に伝わっていなければ、町民は「やっていない」と受けとってしまいます。また、議会のやっていることの詳細が町民に理解されていなければ、「議会は町民の想いに応えていない」と評価されるかもしれません。問題は、議会の町民に伝える力が問われていることにあるのだと私は思います。

議会は住民と対話を

秘密会の議決をした時以外、議会には議論されたことを町民に伝える義務と責任があります。これは議会が町民の代表機関であることから当然のことです。議会は「伝える力」を鍛えるだけでなく、「対話する力」も鍛えなくてはいけません。町民の声を町政に反映させるという仕事は、町民と意見交換をおこない、その過程で議会の政策立案能力を高めていくことで結果を出すことができます。「対話する力」を鍛えるために、議員のなかから「議会報告会」の開催を説く声があります。



日南町議会・議会図書室

「町民が主人公」の視点で議会改革を

私が議会の出来事を町民のみなさんにお知らせするのは、議員の責務としてやっていることです。これからは、議会が議会情報を町民により積極的にオープンにしていくことを、議会改革を説く他の議員と共同して取り組んでいきたいと思います。

★裏面に議会事務局に提出した私の「視察研修報告書」の全文を掲載しています。ご覧ください。

編集後記

「わかっているなら質問するな」――これは九度山町議会9月議会で議案質疑の時、私の質問に対して出た野次です▼町の事業や財政などについて事前に調査した上で、問題点を指摘したり、改善を求めるためにするのが議会での質問で、**「わかった上で質問する」のが議員の仕事**。私が議員になった時、議会ではわからないことを質問してはいけない」と教えられました▼私もわからないことを質問することはあります。しかし、その時は自身の不勉強を恥じています▼今この記事を12月議会の一般質問と議案への質疑準備と並行して書いています。しっかりと準備の上、一般質問・質疑に臨みます。

（伊丹俊也）

ブログ開設中
「Good Morning, 九度山」
http://licitami.at.webry.info/

日本共産党発行
しんぶん赤旗
日刊●月3497円
日曜版●月823円

「2016年度全議員視察研修報告書」　　九度山町議会議員伊丹俊也

視察研修実施日　2016年8月22日（月）～2016年8月24日（水）

視察研修1　鳥取県日南町役場視察

●視察目的

日南町議会の議会改革の取り組みについて

●日南町の概要

日南町は、鳥取県の西南端に位置し、東西に25km、南北に23kmという広がりを持っている。総面積は340.87km2のうち30,446ha（89.3％）は、山林原野で、農用地は2,114ha（6.2％）、その他1,534ha（4.5％）である。

町南部に1,000m級の山がそびえ、北部はなだらかな準平野台地が広がっている。町中央部を流れる河川の流域を中心に田園が広がり、標高280mから600mの間に大部分の集落と耕地が集まっている。

1959（昭和34）年に5町村の合併が実現し、現在の日南町が誕生。人口は5,112人、2,170世帯（2015年住民登録）。高齢化率は45％を超えている。

●視察研修内容

町役場庁舎にて、村上正弘議長と岩﨑昭男議会事務局長より議会改革の経過と実績について説明を受けました。

①議会改革の主な成果

2004年9月　本会議のCATV生中継、録画放送の開始

2008年1月　委員会、全員協議会の公開（傍聴、議事録閲覧）

町ホームページに本会議議事録、採決結果、一般質問要旨、日程を公表

2012年　議会報告会・意見交換会開始

2015年10月　議会基本条例の制定（町長の反論権など）

②「議会改革に関する調査特別委員会」（2015年4月設置）の活動実績

・傍聴者に議案を貸し出し

・議案概要を町ホームページに公開

・すべての委員会（議会運営を除く）のテレビ中継・録画放送

・本会議議案の町ホームページへの公開（議員配布と同時）

【所感】

「日南町議会が議会改革に取り組むことになったきっかけは？」とまず私は尋ねました。議会改革に取り組むことになった動機は何かを知ることが重要だと考えたからです。町当局が提案する議案が町議会でそのまま通る、という追認するだけのこんな議会はいらない―この町民の議会に対する不信感や議会不要論がきっかけだとの回答をいただきました。議会不要論に対して議員はどう向き合うべきか、という問題は程度の差こそあれ、全国の地方議会共通のものです。この問題に対して日南町議会はどう対応したのか。それは、本会議だけではなく委員会（議会運営を除く）そして全員協議会を町民に公開し、また議会報告会・意見交換会開催することで議会をオープン化する、つまり「議会公開の原則」を徹底することでした。私は、日南町議会が取り組んだ議会のオープン化は、「議会不要論」に対抗するひとつの答えだと思います。議会情報を町民に公開し、議会報告会・意見交換会で町民の意見を受け取る、この議会と町民との意見のキャッチボールが町民の代表機関である町議会の存在を意味あるものにしていくのだと日南町議会の議会改革への取り組みの事例から感じました。もちろん議会改革の取り組みは議会のオープン化だけではありません。議会運営や議会の政策立案などの問題があります。特に日南町議会の政策立案能力向上に向けた活動は、当局提案を審査するだけの受身の議会活動ではなく、議会自ら課題を設定して取り組む前向きの姿勢で、大いに学ぶべきです。

日南町議会は議会を取り巻く諸々の問題や課題に対して、町民のための議会という視点での議会改革に取り組んでいることに大いに学ばなくてはいけないと感じました。

視察研修2　島根県海士町観光協会視察

●視察目的

地元産品を活用した産業振興とUIJターン者を増やす取り組みについて

●海士町の概要

海士町は、島根県隠岐諸島の島前三島の中ノ島に位置する。面積は33.5平方キロで、人口2,342人（2016年8月推計）。産業就業人口は1,199人である。産業別人口では第一次産業が211人（17.6%）、第二次産業が241人（20.1%）、第三次産業が747人（62.3%）となっている。農林水産業と共に建設業が大きな産業となっており、建設業の従事者数は191人と全産業従事者数の15.9%を占める。

近年は「隠岐牛」のブランド化やCAS冷凍システム導入による海産物の鮮度向上など様々な産業振興の取り組みが行われており、雇用創出や定住者の増加などの効果を挙げている。

●視察内容と所感

観光協会への視察でしたが、案内と説明を担当された方の肩書は海士町役場交流促進課の臨時職員でした。この臨時職員の方は海士町に移住した若者で、観光協会で勤務しているということでした。海士町では、集落支援員、ふるさと支援員としてたくさんの若者を受け入れており、視察時で20名いるとのことでした。

海士町の地域おこしの取り組みについて、大江和彦地産地商課長に説明いただきました。海士町の地域おこしは行政主導で始まり、町役場に産業関係の3つの課（交流促進課・地産地商課・産業創出課）を設置し、「島ごとブランド化」が進められました。海産物を活用した「さざえカレー」やCAS冷凍システムを活用した特産品の“いわがき”の商品化を行い、東京圏への販路拡大を実現しました。また、当該からの移住者いわゆる“よそ者”による起業に対して町が積極的に支援を行い、町の活性化をはかっています。当該からの移住者による起業には実績があり、海士町の新しい力となると同時に、若者のIターンなどにより人口減少の歯止めにもなっています。

上述のように多大な成果をあげている半面、新規就農者への営農指導を町職員が行っていることなどの事例から、行政が動かないと事業が進まないという問題点が垣間見えました。住民参加で町おこし、産業振興をいかに図っていくかという点について海士町の事例に学びながら、本町において地域振興において行政と民間の役割、関係をどう持つのかという課題を克服していく必要を感じました。

以上